

Food Industry Group 食品産業グループ



常務執行役員
食品産業グループCEO
三枝 則生

事業概要

- 食品素材・調味料、医・農薬、化粧品原料などの開発・製造・販売事業
- 飼料・小麦粉製品・砂糖などの製造・販売、およびそれら原材料などの集荷・調達事業
- 水産物などの生鮮食材の生産・製造・加工・販売事業
- 米・青果物・食肉・乳製品などの生産・製造・加工・販売事業

当グループの強み

- 良質なたんぱく源であり養殖適地が限定されている鮭鱒の規模感のある事業基盤
- 穀物飼料・畜産事業を核とした、食料の安定調達と収益の安定化に資するサプライチェーン
- おいしさや健康を通じ、生活者の豊かな暮らしに貢献する食品化学技術

穀物飼料・畜産事業におけるサプライチェーン

(当社出資比率)



マテリアリティと事業の関連性

該当マテリアリティ	マテリアリティとの関連性/アクションプラン
脱炭素社会への貢献	社会の脱炭素化の推進 <ul style="list-style-type: none"> 家畜のメタン排出を抑制する飼料原料の探索 水田のメタン排出を抑制する農法拡大への取り組み 低炭素型農法の取り組み推進
自然資本の保全と有効活用	自然資本・生物多様性保全に配慮した事業展開 <ul style="list-style-type: none"> 食品廃棄物の飼料化の推進 未利用資源の有効活用 代替たんぱく原料の探索 ふん尿の発電利用 水産資源の保全 <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の軽減に資する鮭鱒陸上養殖事業の推進
持続可能で安定的な社会と暮らしの実現	ライフサイエンスの技術を活かした、おいしさ・健康・美しさなどのクオリティーオブライフ向上 <ul style="list-style-type: none"> おいしさや健康を提供する食品素材の製造・販売、機能素材事業の拡大 発酵などの独自基盤技術による新規素材の開発 食の安定供給・命を守る等の社会課題解決への貢献 <ul style="list-style-type: none"> 新薬の研究開発・製造を支えるCDMO(製造受託)事業の強化 生物農業の本邦への導入を通じた農作物の安定生産・次世代の営農支援展開
イノベーションを通じた社会課題の解決	新技術への挑戦 <ul style="list-style-type: none"> 代替肉への取り組み
地域課題の解決とコミュニティとの共生	地域創生への貢献 <ul style="list-style-type: none"> 生産者との接点や販売ネットワークを活用した各地域の水産業への取り組み強化 事業を展開する国・地域の発展への貢献
事業推進における人権の尊重	エシカル消費ニーズへの対応 <ul style="list-style-type: none"> 持続可能性に配慮した商材の取り扱い割合の向上 サプライチェーンにおける人権の尊重 <ul style="list-style-type: none"> 人権・環境デューデリジェンスの適切な実施 事業会社におけるアニマルウェルフェアへの取り組み推進

環境認識

リスク	機会
<ul style="list-style-type: none"> 生産地での気候変動や自然災害の拡大に伴う農産・畜産・酪農の収穫量・生産量の低下 海水面・海水温の上昇による水産養殖事業への影響(生産量低下、飼料価格高騰、設備損害など) 天然資源の枯渇や、資源保護規制強化による供給量の減少、調達の困難化 社会・環境問題に配慮したサプライチェーン構築の要請の高度化 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルデータの積極的活用による第1次産業の効率化 外部環境の影響が少ない新養殖手法の開発(陸上養殖など) 社会・環境に配慮したサステナブルな調達網の構築 エシカル・認証品を含む、消費者ニーズの多様化

中期経営戦略2024 における戦略

- 食のサプライチェーンにおける社会・環境課題の解決に取り組む
- DX等デジタル技術を活用した需給予測・業務可視化・物流効率化などを通じて、サプライチェーン全体の効率化の実現を目指すとともに、食品廃棄物やGHGの削減にも貢献
- 安全かつ安定したサプライチェーンを強化し、日本への食料の安定供給を実現

中期経営戦略2024進捗

鮭鱒の陸上養殖で安定的・効率的な生産を実現

- 当社とマルハニチロ(株)の合併会社であるアトランド(株)(当社51%出資)は、豊富な水資源で知られる富山県入善町で、国内最大級となる鮭鱒の陸上養殖事業に取り組みます。
- 当社が海外の養殖事業で培った知見も活用し、外部環境の影響が少ない陸上養殖による安定的・効率的な生産を実現することで、鮭鱒の国内需要を支えるとともに、輸送距離短縮による低・脱炭素化への貢献を目指します。



陸上養殖事業予定地の富山県入善町

主要な成長ドライバー

収益の柱の強化		第三の成長の柱の発掘
鮭鱒養殖事業	穀物飼料・畜産事業	
<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上や生産量拡大といった生産面強化、付加価値化や市況変動リスク低減といった販売面強化の実行を通じ、収益力向上の取り組みを推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 畜産事業において、付加価値化等による収益構造の強化と、事業構造改革によるコスト競争力の強化を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 循環型成長モデルの実践を通じ、新たな収益源となる成長の柱の発掘およびポートフォリオの最適化を推進。 食品分野における新技術への対応により、技術革新によるディスラプション/急成長分野にも対応。
<p>グローバル鮭鱒需給見通しイメージ</p> <p>出典: Kontali社データより当社試算</p>	<ul style="list-style-type: none"> DXによるサプライチェーン全体の効率化により、ビジネスモデルの変革の取り組みを推進。 地政学リスクも加味した上で、ブラジル等海外での農業関連・穀物調達事業の強化を推進。 	